

中学校卒業式 式辞要旨

春到来の本日

東洋大学附属牛久中学校第7回卒業証書授与式に挙げるにあたり、保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大にかつ厳粛に挙行できますことは、本校にとりまして喜びとするところでございます。心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業生69名の皆さんにお一人お一人に卒業証書をお渡ししました。改めて卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんは小学校入学以来九年間の義務教育を修了するとともに、本校での中学校生活に終わりを告げます。

この間、ご両親を始め、家族の方々、そして、先生方の温かい励ましや指導により、立派に成長することができました。まずはこれらすべての方々へ感謝の心を持ってほしいと思います。

保護者の皆様におかれましてもお子様のご卒業、誠におめでとうでございます。

本校は、昭和39（1964）年に創立され、本年4月に60周年を迎えます。本校の母体となります、東洋大学の創立者、井上円了先生の建学の精神として、「諸学の基礎は哲学に在り」、「独立自活」、「知徳兼全」、を掲げております。これを基礎に本校の教育目標は、

- 1 知的好奇心と高い志をもち、自ら考え、自ら行動する意欲溢れる生徒の育成
- 2 深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる人材の育成

を目指してきました。また、教育方針の3に「魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する」として、具体的には、「国際理解教育」、「理数科教育・環境教育」、「中・高・大・地域の連携教育」の推進を掲げ、特に文部科学省「SGHアソシエイト校」の指定と、茨城県教委からの「世界に羽ばたく人材育成推進事業校」の取組みから、グローバル人材育成のための研究開発、及びその実践に力を入れてきました。

自ら学び、これからのグローバル社会でたくましく生き抜くとともに、自立した社会人として積極的に自分の役割を果たす人間になること。地球規模での課題を解決していくためには、21世紀に生まれ、21世紀の社会を支えていく皆さんの一人一人の力にかかっています。

さて、ここ3年、新型コロナウイルスの感染のため様々な社会的な生活が制限されてきました。特に学校での生活では常にマスクの着用や、消毒の他、感染予防のため、リモート授業など、学校行事も様々な制限の中で実施せざるを得なかったことは、生徒の皆さんだけでなく、のびやかな学校生活を送ってもらいたいと願う保護者の皆さんや我々教職員も「仕方がない」と思うものの我慢を強いられてきました。

しかし、感染状況もようやく落ち着きを見せ、今年度につきましては、ほぼ平常の学校生活を送ることができました。私は今年度4月に着任しましたので、今回の卒業生とはまだ1年間のお付き合いですが、10月のオーストラリア連邦南オーストラリア州の州都アデレードでの語学研修に同行しました。ここで多くのことを学んでくれたと思います。その後、私は今年になって3年生の授業を見学する機会を何度か持ちましたが、わずか2、3か月しか経っていないのですが、アデレードで接していた時と比べて、身体のことだけでなく、発言や物腰・態度など大きく成長してきていることを実感しました。

正に「三日会わざれば 刮目して見よ」の心境でした。これは、「人は別れて三日もすれば大いに成長しているものであって、また次に会った時は目をこすってしっかり見なければならぬ」という意味になります。3年前に、小学校を卒業したばかりの子供たちが3日ではなく、3年間で見違える成

長を遂げました。中学校段階の3年間は最も成長の速度が著しい時期といえましょう。このことは、本日ご臨席いただいている保護者の方々が一番に実感されることと思います。

古来日本では、元服式というものがあり、大体十五歳くらいのときに、元服の儀礼を行っていました。時代や身分、男性女性などで違いはあるようですが、元服の儀式を経て、髪型が変わったり、服装が改まったりすることが一般的で、ここから一人前の大人、成人とされたようです。現在では、十五歳は中学卒業時期に該当することになります。地方によっては、中学校卒業時に「元服式」と称する儀礼をおこなっているところもあるようで、十五歳という年齢は、大人の入り口に入ったということでしょうか。まだ十代であれば、一人前扱いはされませんが、中学校を卒業することで一区切りということになるでしょう。

中国の春秋戦国時代に活躍した思想家孔子の言葉をまとめた『論語』には、「吾十有五而志於学」（十五歳で学問の道を志した）、そして「三十而立。四十而不惑。」と続きます。

十代半ばは、これから本格的に自分の進みたい道・学問を志すときであり、十有五、十代半ばから学問・勉強に力を入れ、三十歳になるまでに様々な努力をして、「三十にして立つ」、この場合は一人前の人間となることを意味しているのだと思います。学問を志してから一人前になるには三十歳になるまでの時間がかかることを自覚してほしいと思います。

このことは、学問・勉強を志す気概・心構えとしてとらえてほしいと思います。皆さんは、中学校を卒業して、これから高校に進むことで、学問を志す場所に立ったと考えてください。

これからの心構えとして、月例集会の講話などでも触れていますが、大切なことなので改めてお話しいたします。人間の成長について、中国の古い言葉に、「万卷の書を読み」「万里の路を行く」という言葉があります。まず、「万卷の書を読む」たくさんの本を読むことで、知識を得る。しかし、本を読んでいるだけでは、その知識を生かすことはできません。

そのために「万里の路を行く」さまざまな苦難、困難を乗り越えて、多くの経験を積むためにも、遠くまで旅をする。その体験を通じて「生きる力」を身に付けることです。

昨年のアデレードの語学研修はまさに「万里の路を行く」体験となったことでしょう。これからの高校生活でもたくさんの本を読んで知識を得るとともに、さまざまな体験的な活動を通じて、より望ましい人間となってもらうことを願っています。

万卷の書物を読む 多くの本を読んで様々な知識、知見を得る

万里の路を行く 遠くまで旅をして様々な体験から生きる力を身に付ける

ぜひこのことを胸に抱いて今後の新たな生活を送ってほしいと思います。

改めて保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。自立を始めた我が子の成長に、一抹の寂しさを覚えつつも、思わず目を細めていらっしゃるのではないのでしょうか。

心からお喜び申し上げますとともに、三年間にわたり本校の教育方針をご理解いただき、ご協力いただきましたことを、本校教職員を代表して御礼申し上げます。

結びに、本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました保護者の皆様方に心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げ、式辞といたします。

2024（令和6）年3月18日

東洋大学附属牛久中学校 校長 金澤利明